

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

設立財団ニュースレター

Vol.29

2023年 7月1日発行

8～9月:エゾシカ管理 9～10月:ヒグマ管理

知床ネイチャーキャンパス2023・ステップアッププログラム

を開催します!

今回のネイチャーキャンパスでは、**Part1：エゾシカ管理**、**Part2：ヒグマ管理**をテーマとしています。講義・ケースメソッド授業・現地実習・ワークショップ形式の演習を組み合わせた複合型プログラムを通じて、専門家から野生動物管理について必要となる基礎的な知識を学ぶとともに、それぞれの経験を有する受講生同士の交流・ディスカッションを通じて、合意形成能力をはじめとする野生動物管理に必要な様々な能力を身につけます。

Part1 エゾシカ管理

録画講義（オンデマンド配信）

2023年8月10日（木）～9月15日（金）

※期間内に各自視聴

ケースメソッド授業（オンライン開催）

2023年9月16日（土）

14:00～17:00（予定）

2023年9月17日（日）

9:30～12:30（予定）

現地実習・ワークショップ演習

2023年9月27日（水）～30日（土）

※最終日は朝の修了式のみ

定員：Part1：20人、Part2：20人（先着順）

参加費：35,000円（大学生・大学院生）、45,000円（社会人）

※講義・ケースメソッド・現地実習・ワークショップ演習のすべてのプログラム参加費（受講料込み）です。実習・演習期間中の宿泊費・食費（1食分を除く）を含みます。宿舎（斜里町ウトロ）までの往復交通費は各自負担です。

Part2 ヒグマ管理

録画講義（オンデマンド配信）

2023年9月8日（金）～10月20日（金）

※期間内に各自視聴

ケースメソッド授業（オンライン開催）

2023年10月21日（土）

14:00～17:00（予定）

2023年10月22日（日）

9:30～12:30（予定）

現地実習・ワークショップ演習

2023年10月28日（土）～31日（火）

※最終日は朝の修了式のみ



申込は左記の Google フォームよりお願いします。

2022 年 12 月開催

知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッション2022

知床から伝える – ヒグマと共存する地域で大切な情報発信とは？ を開催しました

知床でヒグマに関する情報発信を行っている3名をスピーカーに迎え、知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッション2022を開催しました。

トーク1では山本幸さんより、知床財団が行う情報発信について、地元住民や子供たち、観光客など様々な対象に向けての活動をわかりやすくお話いただきました。トーク2では渡邊圭さんより、「ウトロの子ども達とクマ」と題し、小中一貫で取り組んでいるヒグマ学習についてお話いただきました。知床に暮らす子どもたちならではのヒグマや保護管理に対する意識をご紹介いただき、参加者から非常に高い関心を集めていました。トーク3では平野麻莉絵さんより、一般社団法人知床しゃりが担当しているヒグマモチーフの斜里町のシンボルキャラクター「知床トコさん」の商品開発や販売、その他の企画をご紹介いただきました。

後半のトークセッションでは、敷田麻実さんにコーディネーターを務めていただきました。ヒグマに関する情報発信と言っても、活動内容、情報発信の対象はさまざま。そのことを整理し、それぞれが伝えることの難しさを感じた場面や、日々の活動で大切にしている思いなどを掘り下げてお聞きすることができました。参加者の皆さんとも意見や感想を活発にやり取りし、知床で行われている多様な発信について考えを深める時間となりました。

日 時：2022年12月13日（火）19:00～21:00

方 法：オンライン開催（Zoomによる）

参加者：62名

北海道内のほか、東京都、埼玉県、長野県、岐阜県、大阪府、京都府、鳥取県、鹿児島県、沖縄県など全国各地からご参加いただきました。

★スピーカー



山本 幸さん

公益財団法人知床財団
事業部長



渡邊 圭さん

斜里町立知床ウトロ学校
教頭



平野 麻莉絵さん

一般社団法人知床しゃり
情報発信担当

★コーディネーター



敷田 麻実さん

北陸先端科学技術大学院大学教授
知床世界遺産科学委員会適正利用
・エコツーリズムWG座長

<アンケート抜粋>

★特に面白かった、惹きつけられた内容は？

3名の方々のプレゼンが本当に良かったです。それぞれに異なる立場からのお話、とても考えさせられると同時に、知床がより立体感をもって感じられました（個人的にはストレートな子どもの声がとても興味深かったです）。3名の方のお話から、地域のブランディングから自然保護、そして自然教育と、全体として取り組まれている知床の方々のすごさを感じ、他の地域にも参考になることが多々あると思いました。

トークセッションの中で、発表をされた3名のそれぞれの立場で“誰に”、“何を”、“どう伝えたいのか”互いに確認しあう姿、そこに閲覧者が共鳴していく様子が興味深く、また印象に残る場面であった。

★今後希望するテーマは？

- ・野生動物と人との共生
- ・知床、自然、北海道のことならなんでも
- ・野生動物の個体数管理に関する話
- ・様々な知床関係者たちの想い
- ・観光客とヒグマ問題！地域とヒグマ問題！
- ・野生動物観光と保護の考え方、関係者の思い
- ・知床開拓の歴史
- ・知床を取り巻く希少種関連のお話
- ・異なる立場の方々が同じ対象を語るセッション
- ・知床の地理や地質的な魅力と千島列島との繋がり

2023年1~2月開催

知床ネイチャーキャンパス -3STEPで学ぶヒグマ管理-

を開催しました

STEP1

オンデマンド講義と予習

2023年1月16日(月)~2月10日(金)

講義「ヒグマの生態と管理」約90分

講師：間野勉さん

ケース教材「ヒグマ対応最前線」

作成：公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

受講生：34名

大学生・大学院生 17名

社会人 17名

大学生・大学院生は、帯広畜産大学、東京農業大学、宇都宮大学、信州大学、広島大学、近畿大学、北海道大学大学院など。社会人は環境省、都道府県職員、研究者、NPO法人職員、民間会社（環境コンサル）、林業など、様々な職種の方にご参加いただきました。

STEP2

STEP3

ケースメソッドとワークショップ

★ 大学生・大学院生対象

日 時：2023年2月11日(土)~12日(日)

★ 社会人対象

日 時：2023年2月25日(土)~26日(日)

講師 間野 勉さん

北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所 専門研究員

IUCN/SSCクマ専門家グループ日本委員

知床世界自然遺産地域科学委員会ヒグマWG委員、適正利用・エコツーリズムWG委員

敷田 麻実さん

北陸先端科学技術大学院大学教授

知床世界自然遺産地域科学委員会委員、適正利用・エコツーリズムWG座長

伊集院 彩暮さん

公益財団法人知床財団 保護管理事業係

野生動物対策を担当し、日々現場対応に駆けずり回っている。

STEP1

オンデマンド配信講義 「ヒグマの生態と管理」

まずはじめのステップとして、受講生には間野講師のオンデマンド配信講義「ヒグマの生態と管理」を受講していただきました。講義は北海道や世界のヒグマについての概説からはじまり、北海道の人間とヒグマの関係史や、形態や生態、行動などの生物学、いくつかの事例と被害を避けるためのポイント、そして保護管理を支える考え方にまでおよびました。「人慣れ」と「馴化」の区別、「人間とヒグマの不適切な関係度」の改善や問題個体の駆除が管理において重要であることなど、ヒグマ管理における基本的な知識をしっかりと学習しました。

間野 勉 講師

ヒグマの行動を理解するポイント

- ・人慣れ(人為的な環境に対する慣れ)
人間との「無害な」接触を重ねることで、学習によってヒグマが人間の存在を必ずしも忌避しなくなる
- ・馴化
生物が環境の変化に数日から数週間かけて適応していくこと
- ・住宅地における探餌への馴化

STEP2

ケースメソッド「ヒグマ対応最前線」

敷田 麻実 講師
間野 勉 講師
伊集院 彩暮 講師

■ ヒグマ対策経験談 伊集院 彩暮 講師

まずは伊集院講師に、ヒグマ管理担当者として感じる「モヤモヤ」(矛盾や葛藤)を話していただきました。問題の解決に駆除という選択肢が取られていること、危機一髪の事例が生じても人間の対応はなかなか変化しないこと、追い払いや駆除が担当者にとって非常に危険であることなど、日々の業務で感じている様々な葛藤を教えていただきました。受講者はZoomのチャット機能を活用しつつ、ヒグマ管理の現場感覚を共有しました。

■ グループディスカッション・全体ディスカッション

★ 大学生・大学院生対象

①知床のヒグマ管理が抱える課題を挙げてください

ケース教材に示していた設問について、まずチームごと、その後全体でディスカッションを行いました。人なれ個体が増加しているというクマ側の変化に加え、対策を担う人材や各組織の連携が十分ではないのではないか、普及啓発や観光の対象・内容に課題があるのではないかといった意見が多く上がりました。

②知床での人間とヒグマのあるべき姿を示してください

続いて人間とヒグマはどうあるべきかという議論に移行しました。個体数調整の必要性、人間とヒグマの適切な距離感、距離感を保った観光とはいかなるものか、という点について様々な見解が示されました。加えてみんなが一緒に議論する場をつくる、国立公園の管理料を取る仕組みをつくる、といった意見、ディスカッションが進むにつれて現場の感覚から離れてしまったのではないかといった再考を促す意見なども上がりました。

③②の実現のためなすべきことを挙げてください

知床で人間とヒグマのより良い関係を構築するために、高松(ケースの主人公)がなすべきことについて、意見を交換しました。釣り場にヒグマに荒らされないゴミ箱を設置する、自然保護系のNPOや学生からボランティアを募る、獣害を観光資源化する、アクションカメラを使用して狩猟技術を継承する、といった様々なアイデアが飛び出しました。間野講師が絶えずグループを回り、その都度適確なアドバイスをくださいました。

★ 社会人対象

①知床のヒグマと人の関係はどのような状態が理想?

「緊張感」などのキーワードが複数の受講生から上がり、具体的に誰がどんな距離でヒグマに遭うのが問題なのかについて議論が深められました。「ヒグマが人と滅多に遭わないのが理想」という意見の一方、「クマに出あえる環境を整えることが必要」という声もあり、人とヒグマの距離感をめぐる幅のある認識が全体で共有されました。

②知床ウッズ(現場)がヒグマ管理で直面する課題を挙げてください

人とヒグマの距離が近すぎる、管理者同士の連携が不十分、現場担当者の権限が限定的、普及啓発が届くべきところに届いていない、ヒグマを観光資源として観光客を誘致しているという矛盾を抱えている、など様々な意見が上がりました。そもそも根っこにある課題を考え、様々なステークホルダーが関わり、関わっている人々の認識がズレている、さらにズレている認識をすり合わせるのは可能なのか、ズレの修正は難しいので管理者にもっと権限を付与するべきではないか、と議論は深められていきました。

③人とヒグマのよりよい関係のために、高松たちの知床ウッズができることを提案してください

関係者間で共有できるビジョンはあるのか、あるとすればどんなビジョンで、大地たちは何をすべきなのかを議論。結果的に全てのチームが共有できるビジョンはあるという結論に至り、「ヒグマによる人身事故で知床のイメージを悪くしない」「軌轢の解消」といった内容が示されました。

STEP3 ワークショップ

敷田 麻実 講師
 間野 勉 講師
 伊集院 彩暮 講師

★ 大学生・大学院生対象

300万円で有効なヒグマ対策を考える

ワークショップでは各チームで有効なヒグマ対策の具体案を考えました。敷田講師のファシリテーションのもと、途中で休憩や中間報告を挟みつつ、4時間半に及ぶディスカッションの成果が最終的に報告されました。

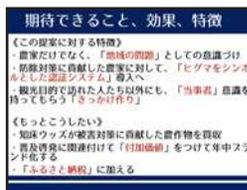
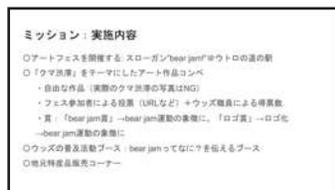
3チームから、知床のクマ問題の理解者を増やすためのアートフェス開催、ヒグマとより良い共生社会を作るための資金集め（クラウドファンディング）の実施、釣りから出た残滓を回収・堆肥化し、地域の施設を巻き込んだ循環システムなどが提案されました。これらの提案について活発なディスカッションが行われ、最後に間野講師、伊集院講師、梶講師から講評をいただきました。

★ 社会人対象

3000万円で有効なヒグマ対策を考える

社会人は3000万円の制限のもと、有効なヒグマ対策の事業案を検討しました。

4チームから、ヒグマの行動改善を課題としてヒグマへのネガティブな条件付けに効果を発揮するような手法の開発・研究を3000万円で支援するという案、観光客への普及啓発に焦点を絞リレクチャー動画の公開や釣り大会などを行う案、さまざまな立場の人間を巻き込んだ電気柵設置事業案、問題を当事者たちに「自分事」としてもらい人々の間の「共感」を醸成するための総合的な対策案が示されました。これらの提案について活発なディスカッションが行われ、最後に間野講師、伊集院講師、梶講師から講評をいただきました。



<アンケート抜粋>

★プログラム全体を通じて、記憶に残った点、学んだ点があれば教えてください。

大学生・大学院生対象

・ 知床、ヒグマ、人対応というテーマを通して、貴重なグループディスカッションの機会を得ることができ、円滑に議論を進めるための手法、どうしたら角が立たない言い方ができるか、相手に不快な思いをさせることなく自分の意見を主張し全体にいかに関与するかなど、今後生きていくうえでとても重要な手法および知見を得ることができ、このようなことまで学べると思っていたため、ぜひ今後も学んでいきたい。

・ 野生生物の問題に見えて、野生生物が直接絡んでいる要素が意外と少なかったように感じた点。思っていたより複雑で、課題の一つひとつの背後に複雑で重層的な課題が積み重なっていた点。特に観光業を盛り上げることや、地域の業者を守ることと地域住民や観光客の安全を守ることの表裏一体なはずなのに連携がうまくされていない点。そしてその裏にはそれぞれの思惑や立場があり、野生生物以外でも多くの地域で他の事例との類似点を見出せた点。

社会人対象

・ 一流の講師と、やる気あふれる参加者の熱意に感化され、2日間全力でやり切ることができた。解決策を考えるのはかなり困難であるが、各グループ案の中で現場の助けになる案があれば良いと思う。

・ 伊集院さんのお話がなんと言っても印象的です。グランドデザインや管理計画はもちろん大事ですが、こうした現場でのリアルなヒグマと人の課題を、誤解のないかたちで一般の方が知る機会があるといいなあと思いました。ありがとうございました。

・ クマという動物、自然のシンボリック的存在であると同時に、農作物被害を発生させるだけでなく、人と接触した場合に大きな事故が起きてしまうという点で、その他の動物とは異なる存在であると改めて感じた。そのため、対策を行うにしても、人々の意識を変えていくのが難しくなっていたり、対策を行う側の人間の努力・消耗というのも大きくなっている。そのところを理解しながら、しっかりと対策を進めていくことが重要であると感じた。

京都市立西京高等学校研修旅行の知床学習を担当しました

2023年3月6日、研修旅行で知床を訪れた京都市立西京高校の1年生60人を対象に、当財団で流氷の価値などを考えるワークショップを開催しました。西京高校生が研修旅行で知床を訪れるのは3回目。今回は「私たちが残したい・伝えたい流氷の価値」をテーマとし、その価値を残すための具体的な取り組みを考えてもらいました。

2月にはZoomを使った事前授業で、中川元・業務執行理事が知床の生態系を支える流氷、地球温暖化によって海氷が減少していることなどを講義。知床に来てから生徒さんたちは流氷ウォークを楽しみ、プユニ岬で流氷を眺め、知床自然センターを見学し、実際に流氷を見て感じた経験も踏まえて、ウトロ漁村センターでのワークショップの発表に臨みました。

◎アイスアルジーからつながり作り出される豊かな生態系を価値と感じ、知床に関わるみんなで知床の生態系（食物連鎖）マップを作る！

◎流氷がもたらす栄養分によって美味しい海産物が獲れることに注目し、流氷ブランドとして京都の北海道物産展などで売り出したらどうか？

以上のような、多彩な内容の提案がありました。知床の生態系や生物多様性をしっかり理解し、生徒さん自身が実際に感じたことを盛り込んだ素敵な発表を聞かせていただきました。



斜里高等学校の混合ゼミ(知床・自然ゼミ)を担当しました

地元・斜里高校の混合ゼミの授業が2023年3月15～17日の3日間に行われ、当財団が知床・自然ゼミを担当しました。1、2年生17人が参加し、「私たちが残したい、伝えたい流氷の価値」をテーマとしました。

初日に中川元・業務執行理事が講義を行い、2日目は知床蟹気楼・幻氷研究会の佐藤トモ子さんに講師をお願いし、斜里町内の以久科原生花園で蟹気楼・幻氷観察などのフィールドワークを開催。最終日の3日目はまとめとしてのワークショップを行いました。その中には、食物連鎖を支えるプランクトンやクリオネの存在、観光資源など、流氷だけでなく、流氷に関連する様々なものが価値として挙げられました。

それらを残す・伝える具体的な取り組みとして、youtubeによる海のない内陸国への発信、子供向けの「流氷雪合戦」、クリオネの販売、二酸化炭素排出抑制のための電気自動車の普及など、地元目線でありながら、柔軟な発想から生まれたアイデアをたくさん聞かせていただきました。



「首都圏の会『懇談会』」を開催しました

2023年2月14日(火)(午後5時半～8時半)、東京都の地球環境パートナーシッププラザ(国連大学1F)で「首都圏の会『懇談会』」を開催しました。新型コロナその他の事情でほぼ3年ぶりの開催でしたが、活発な発言が飛び交い充実した会合となりました。

参加者16名のうち初参加が9名。まずは自己紹介から開始し、これに小一時間ほど要しましたが、皆さん一人ひとりが多彩な経歴であること、野生生物に対する視点、知床や当財団の活動との関わりの経緯や思い出も様々であり、まさに“多様性”に満ちていることを痛感させられ、有意義な自己紹介の時間でした。

株式会社野生動物保護管理事務所(WMO)の濱崎伸一郎さんや、サージミヤワキ株式会社の宮脇豊さんからは、事業として野生動物問題に取り組んでいる方々ならではの興味深いお話がありました。濱崎さんは、入社当時、シカは保護対象で軋轢の問題はその後のこと、知床での体験が貴重だった、若手社員たちにも同様の経験をさせたいという意味からも設立財団への期待は強い、知床のフィールドとしての役割は大きいというご意見でした。また宮脇さんは、日本は植物の生産性が高い、つまり動物にとってはエサが豊富であり、単に駆除するだけでない対策が必要である、ニュージーランドではシカは今では重要な資源になっている、とのことでした。

資源問題に関して、シカの角は鹿茸(ロクジョウ)という漢方薬の材料にもなるという発言を受けて、シカは「害のある資源」といわれるが、捕獲後大部分を廃棄処分しているのは日本だけ、欧米では貴重な資源となっている、利活用を本格的に進めるべきと、当財団理事でもある梶光一・東京農工大学名誉教授からもコメントがありました。

また若者や子どもたちの自然環境理解促進の重要性など、意見は多岐にわたりました。京都市立西京高校の知床研修旅行に注目が集まったこともきっかけで、ユース(若者)を重視することについての意見が強調されました。特に渡辺綱男顧問からは、若者中心のイベントとして「知床会議」(仮称)を開催してはどうか、最初は無理のない範囲でスタートしては、との提案がありました。これには多数の出席者から強い賛意が表明されました。大いに盛り上がり、今後の活動の展開のすそ野が大きく広がる可能性に期待して、締めくくりとなりました。

約3時間の「懇談」のあと、更に二次会へも14名が参加者して懇親を深めました。平日午後という時間帯にご参加頂きまして、皆さん、どうもありがとうございました。再会を約束して散会致しました。また今回のこの様な会の開催をご提案くださった唐沢敬顧問に感謝申し上げます。
(理事：三宅雅久、家村充尋)



※首都圏の会とは・・・
知床自然大学院大学設立財団を支援する首都圏の役員や賛助会員、支援者らで作る会

■ 理事会・評議員会報告

<令和4年度第3回理事会>

開催日時：2022年12月18日（日）午後3時30分より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

- 報告事項**
- 1 代表理事・業務執行理事の業務報告
 - 2 知床ネイチャーキャンパス・オンライントークセッションの開催結果
 - 3 斜里高校「知床学」の指導結果、京都市立西京高校「知床研修」指導結果
 - 4 知床ネイチャーキャンパス・3STEPで学ぶヒグマ管理の準備状況
 - 5 野生動物管理教育プログラム検討会への出席状況、試行への参加状況
 - 6 賛助会員の加入状況及び募金の状況について
 - 7 資金獲得戦略ワーキンググループ・各部会報告

協議事項 令和5年度の事業実施方針と資金獲得について

<令和4年度第4回理事会>

開催日時：2023年3月21日（火）午前10時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

- 決議事項**
- 第1号議案 「令和5年度（2023年度）事業計画（案）」承認の件
 - 第2号議案 「令和5年度（2023年度）収支予算（案）」承認の件

- 報告事項**
- 1 代表理事・業務執行理事の業務報告
 - 2 賛助会員の加入状況及び募金の状況について
 - 3 「知床ネイチャーキャンパス・3STEPで学ぶヒグマ管理」の開催結果について
 - 4 第12回計画策定専門委員会の開催結果について
 - 5 首都圏の会、管理教育検討会、西京高校研修指導、その他活動報告
 - 6 資金獲得戦略ワーキンググループ報告

協議事項 令和5年度の事業実施方針と資金獲得について

<令和5年度第1回理事会>

開催日時：2023年5月12日（金）午後7時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

- 決議事項**
- 第1号議案 「令和5年度（2023年度）事業計画」承認の件
 - 第2号議案 「令和5年度（2023年度）収支予算」承認の件
 - 第3号議案 令和5年度（2023年度）第1回評議員会（定時）召集の件

報告事項 1 代表理事・業務執行理事の業務報告

<令和5年度第1回評議員会>

開催日時：2023年6月7日（水）午後1時30分より

開催場所：ゆめホール知床会議室1（斜里町本町4）

- 決議事項**
- 第1号議案 「令和4年度事業報告書」承認の件
 - 第2号議案 「令和4年度決算報告書」承認の件
 - 第3号議案 理事追加選任の件

報告事項

- 1 賛助会員の加入状況及び募金の状況について
- 2 今年度の活動展開について、ほか報告事



令和 4 年度事業報告

I 公益事業

1 知床自然大学院大学設立準備事業

(1) 知床自然大学院大学計画の策定と専門委員会の開催

会議では 2022 年度からの新しい活動展開とリカレントプログラムの開催結果についてを報告、議論し、令和 5 年度以降の事業展開と必要な能力を付与する教育手法について議論しました。

第 12 回計画策定専門委員会 日 時：2023 年 1 月 18 日(火)
オンライン開催 (Zoom による) 参加者：委員 8 名

知床自然大学院大学設立財団 計画策定専門委員

委員長	梶 光一	東京農工大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団理事
副委員長	中村 太士	北海道大学大学院農学研究院教授
委員	金子 正美	酪農学園大学環境共生学類教授
委員	小林 万里	東京農業大学生物産業学部教授
委員	桜井 泰憲	北海道大学名誉教授
委員	鈴木 正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授
委員	敷田 麻実	北陸先端科学技術大学院大学教授
委員	曾野 知雄	レスコム北海道合同会社代表
委員	中川 元	元知床博物館館長・知床自然大学院大学設立財団業務執行理事
委員	松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
委員	横山 真弓	兵庫県立大学自然環境科学研究所教授
委員	湯本 貴和	京都大学教授・京都大学霊長類研究所長
委員	吉田 正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
オブザーバー	大泰司紀之	北海道大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団評議員
オブザーバー	渡辺 綱男	元環境省自然環境局長・知床自然大学院大学設立財団顧問
オブザーバー	田中 俊次	東京農業大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団代表理事

2 普及啓発・広報事業及び調査研究事業

(1) 知床ネイチャーキャンパスの開催

知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022

<現地実習・演習>

日 時：2022 年 6 月 11 日(土)～13 日(月)

講 師：秋葉圭太、宇野裕之、梅村佳寛、

梶光一、敷田麻実、山田秋奈(敬称略)

参加者：20 名

2022 年 2 月に実施したオンライン講義の受講生のうち、20 名にご参加いただきました。環境省や林野庁、都道府県、市町村職員のほか、環境コンサルタントや環境 NPO、民間会社など、野生動物管理に携わる現職の方を含め、管理に様々な関心をもつ方々が集まりました。



知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッション
 知床から伝えるーヒグマと共存する地域で大切な情報発信とは？

日 時：2022年12月13日(火) 19:00~21:00
 講 師：山本幸、渡邊圭、平野麻莉絵(スピーカー)
 敷田麻実(コーディネーター)(敬称略)
 方 法：オンライン (Zoomによる)
 参加者：62名
 北海道内のほか、東京都、埼玉県、長野県、岐阜県、大阪府、京都府、鳥取県、
 鹿児島県、沖縄県など全国各地からご参加いただきました。



知床ネイチャーキャンパス -3STEPで学ぶヒグマ管理-

STEP1 オンデマンド配信講義とケース教材の予習
 日 時：2023年1月16日(月)~2月10日(金)
 講 師：間野勉(敬称略)

STEP2、3 ケースメソッドとワークショップ
 学生対象：2023年2月11日(土)~2月12日(日)
 社会人対象：2023年2月25日(土)~2月26日(日)
 講師：間野勉、敷田麻実、伊集院彩暮(敬称略)

方 法：オンライン (Zoomによる)
 参加者：34名(学生17名、社会人17名)
 学生は、帯広畜産大学、東京農業大学、宇都宮大学、信州大学、広島大学、
 近畿大学、北海道大学大学院など。社会人は環境省、都道府県職員、研究者、
 NPO法人職員、民間会社(環境コンサル)、林業など様々な職種の方にご参加いただきました。



(2) 高校生の研修旅行の指導、その他の活動など

京都市立西京高校生の研修旅行コーディネート

日 時：2022年10月4日、5日
 参加者：2年生56名

同校からの要請を受け、北海道研修旅行の知床滞在時におけるフィールドワークとワークショップのコーディネートをを行いました。知床五湖散策のほか、地元観光関係者や斜里高生との交流を行い、最後に自然環境保全と観光の両立を考えるワークショップを開催しました。

日 時：2023年3月6日
 参加者：1年生60名

同校からの要請を受け、北海道研修旅行の知床滞在時に「私たちが残したい・伝えたい流氷の価値」をテーマとしたワークショップを開催しました。2月にZoomによる事前授業を行い、当日はプニ岬や知床自然センター訪問の後、ウトロ漁村センターで各班の発表会を開催しました。

斜里高等学校の「知床学」と「混合ゼミ」の指導

知床学

講義：2022年6月21日（笠井理事）
2022年7月19日（中川業務執行理事）
フィールドワーク：2022年9月27日
参加者：2年生28名

同校からの要請受け、故郷の「良いところ・魅力」と「問題点・課題」の両面を学ぶ「知床学」の2講義とフィールドワークの指導を担当。フィールドワークでは、元斜里町長の午来昌さんの自宅で講話をいただいたほか、知床100平方メートル運動地や知床五湖、知床峠などを訪れ、現地で自然と人の関わりの歴史について解説しました。

混合ゼミ

日時：2023年3月15～17日
参加者：1、2年生17名

同校からの要請を受け、「私たちが残したい、伝えたい流水の価値」をテーマに、中川業務執行理事が講義を行ったほか、知床蜃気楼・幻水研究会の佐藤トモ子さんに講師をお願いし、以久科海岸でのフィールドワークを開催。まとめのワークショップでは、地元高校生ならではの柔軟な発想から生まれたアイデアを発表してもらいました。

札幌シャチの会と共催の自然観察会

日時：2022年5月28日
場所：北海道神宮・円山公園（札幌市）
参加者：10名

日時：2022年11月19日
場所：ウトナイ湖（苫小牧市）
参加者：12名

札幌圏で知床自然大学院大学設立財団を応援する市民の会「札幌シャチの会」と共催した自然観察会を2回開催しました。5月には「北海道神宮・円山公園の自然」、11月には「ウトナイ湖と苫小牧の自然と野鳥」をテーマに現地観察会を開催し、講師はいずれも鈴木理事が担当しました。



首都圏の会・懇談会

日時：2023年2月14日
場所：地球環境パートナーシッププラザ（東京都）
参加者：16名

首都圏の役員や賛助会員、支援者らでつくる首都圏の会の懇談会をほぼ3年ぶりに開催しました。野生動物保護管理の実績がある企業経営者の方々から興味深い現場の話をついたほか、若者や子どもたちの自然環境理解の促進、ユース（若者）を重視することの意義から、「知床会議」（仮称）開催の提案などがあり、今後の財団活動が大きく広がる可能性を感じさせる有意義な会合となりました。



(3) 「設立財団ニュースレター」の発行

ニュースレターを3回発行しました。

<第26号> 2022年5月20日発行 14p
令和4年度から取り組む新しい事業展開について、
令和4年度の具体的事業計画など

<第27号> 2022年7月20日発行 20p
「知床ネイチャーキャンパス・リカレント2022」
実習演習の開催結果についてなど

<第28号> 2022年11月25日発行 8p
クラウドファンディング目標達成のお知らせなど

(4) 知床ネイチャーキャンパス報告書の発行

2023年3月24日発行 A4版 24p

令和4年度に開催した知床ネイチャーキャンパス
(リカレント、オンライントークセッション、3STEP
で学ぶヒグマ管理)について、開催プログラムと開
催結果、講義や実習、ワー
クショップ内容を詳報した
報告書を作成しました。賛
助会員・支援者のほか、関
係行政機関や保全関係団体、
研究者、事業協力者、報道
機関等にも送付して、活動
成果の理解を広めました。



(5) ネットを活用した広報活動

<ホームページの運用>

行事案内や活動の結果報告を掲載。各年度の事業計
画・事業報告、予算書・決算書等の情報公開、ニュー
スレターの各号の公開をホームページの中で行いま
した。

<公式ブログの更新とSNSの活用>

ブログでは行事案内、活動結果報告等を行いました。
SNSはFacebookとTwitter、Instagramを継続運
用しました。各SNSのフォロワー数は順調に伸びて
おり、野生生物や人材養成に関心を持つ幅広い皆さ
んとの交流や情報交換の場として、また賛助会員や
支援者とを繋ぐツールとして活用しました。

(7) 調査研究事業

引き続き人材養成のための教育プログラムや教育課程に関する資料の収集、特に人材養成に関する教育手法について資料収集と調査研究を行いました。教育手法では、ケースメソッドの野生動物管理教育への活用を検討し、知床ネイチャーキャンパスのプログラムの一つとして導入しました。ケース教材の作成は現地業務に精通した専門家や保護管理分野の研究者の協力を得て進め、その実践と受講生アンケート等による評価を行い、その有効性を確認できました。

また、教育実践手法としてWeb会議システムの活用研究を進め、オンラインによるワークショップ運営手法の開発を行いました。オンラインと現場におけるフィールドワークや人的交流を主とした実習・演習との組み合わせによる効果的で新しい教育プログラム構築のための調査研究を進め、専門委員会での議論や学会等の場で発表し意見交換を行いました。

(6) パンフレット、その他の広報活動

活動の理解と支援者の拡大を目的に、ワイルドマナ
ジャー養成の必要性などについて紹介した新パンフ
レットを5月に作成・配布しました。

2022年10月18日に公益法人協会が東京・日本教
育会館で主催した 同会創立50周年記念シンポジウ
ム「多様化する社会と公益法人の可能性」で鈴木理
事がパネルディスカッションに登壇。知床ネイチャー
キャンパスを中心とする最近の活動を紹介しながら、
公益法人制度の在り方について提言を行いました。
2023年3月27日にNPO法人持続可能な開発の
ための教育推進会議が主催するオンラインセミナー
が開催され、中川業務執行理事が「生物多様性の維
持とワイルドライフマネジメントにおける教育の役
割」と題して講演しました。

III 法人の運営状況について

1 事務局の状況、知床ワイルドライフセンター設置と研究員の新規雇用

常勤の業務執行理事 1 名と非常勤の事務局長（理事） 1 名、常勤の事務局員 1 名、研究員 1 名による運営体制としています。令和 3 年 5 月より、事務局から徒歩圏内の居住用家屋を借り受け、知床ワイルドライフセンターとして開設し、研究者やボランティア等が滞在し活動する場としました。令和 4 年度は調査で来町した大学教員や実習で来町した大学生、指導教員等の利用があり、理事や研究員との交流がありました。今後も野生生物研究や人材養成活動の拠点として活用を図ります。

2 ファンドレイジングの状況（賛助会員と寄附金について）

	種別	予算 (件数)	予算 (金額)	実績 (件数)	実績 (金額)
賛助会員	個人	200	1,000,000	105	525,000
	団体	15	150,000	5	50,000
	法人・法人特別	60	2,400,000	35	1,420,000
	小計	275	3,550,000	145	1,995,000
一般寄附金			5,500,000	43	4,683,000
管理指定寄附金				2	600,000
	合計		9,050,000		7,278,020
設立資金	目標額		80,000,000	0	0

(単位：円)

賛助会員の新規募集と寄付金の要請は、資金獲得ワーキンググループを核に取り組みました。中でも新型コロナウイルス感染症が続いたため、ネットを活用したクラウドファンディングに力を入れ、成果がありました。また、役員及び事務局からの文書依頼やパンフレットの送付による要請も行いました。加えて、主催事業等でのパンフレット配布やホームページの活用、SNS を利用した広報活動を行いました。

令和 4 年度は新規賛助会員の加入を得た一方で、会員継続されなかった会員がありましたが、クラウドファンディングの成果も取り込み賛助会員数、金額ともに前年度を上回ることができました。寄付金収入もクラウドファンディングの目標達成もあり、前年度を上回ることができました。

令和 4 年度事業報告書及び決算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書等）についてはホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

知床自然大学院大学設立財団は、 活動を支援して下さる **賛助会員、寄付金** を募集しています

当財団の事業は皆様から寄せられた浄財によって実施されています。何卒、一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、当財団は内閣総理大臣の認定を受けた公益財団法人です。当財団への寄付金・賛助会費は、特定公益増進法人に対する寄付金として税法上の優遇措置が適用されます。法人の皆様には損金算入限度額の優遇措置が、個人の方には所得税の税額控除（または寄付金控除）の対象となります。また遺贈も承っております。詳しくはホームページ、または当財団事務局までお問い合わせください。

■賛助会員とは

この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

■会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

個人会員：5,000円

団体会員：10,000円

法人会員：20,000円

法人特別会員：100,000円

■加入申し込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金は右記口座への入金でも受付しています）



知床自然大学院大学設立財団ホームページ

賛助会員・寄付金募集ページ

<http://shiretoko-u.jp/supporter/>

■賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報をお送りします。

■寄付金について

寄付金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

■税制優遇について

当財団への寄付金・賛助会費には税制上の優遇措置があります。

■主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号19940（普）10138691

（※他の金融機関から 店名九九八 番号1013869）

北洋銀行斜里支店 店番452（普）3119440

北海道銀行斜里支店 店番904（普）0530326

網走信金斜里支店 店番003（普）0284957

大地みらい信金羅臼支店 店番003（普）1072873

設立財団ニュースレター 第29号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10

TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773 E-mail sizendaigaku@wine.plala.or.jp

Web <https://www.shiretoko-u.jp>

発行日 2023年 7月 1日